論　文

個人の持つ原風景の形成プロセスと環境教育活動が及ぼす影響

上塘　禎[1)]・井倉　洋二[2)3)]

Formation process of the individual's primal scene and influence of environmental education activities

KAMITOMO Sadamu[1)] and INOKURA Youji[2)3)]

[1)] 鹿児島大学大学院農学研究科
Graduate School of Agriculture, Kagoshima University, Kōrimoto, Kagoshima 890-0065, JAPAN
[2)] 鹿児島大学農学部附属演習林
University Forests, Faculty of Agriculture, Kagoshima University, Kōrimoto, Kagoshima 890-0065, JAPAN
[3)] 連絡先著者
Corresponding Author: inotch@agri.kagoshima-u.ac.jp

Received Nov 4, 2009 / Accepted Nov 27, 2009

Summary

Environmental education activities have been carried out in the Kagoshima University Forest since 1999. The target of environmental education is that participants can voluntarily judge environmental problems, and become able to act on them. However, there is individual variation in the educative effect because the sense of values concerning the environment is different depending on the individual. In the present study, the "primal scene" was taken up as a formation factor of the sense of values concerning the environment. A survey of 89 people, including university students, was carried out, and the formation process and the influence of the individual's primal scene were examined. From the results of the survey, it was clarified that the primal scene that formed the sense of values concerning environment is related to pro-environment behavior. An environmental education program to contribute to the formation of the primal scene was examined.

Significant results were as follows:

(1) The primal scene of a person who grew up in a rich natural environment is mostly everyday space.
(2) The formation time of the primal scene occurs mainly in two periods: at elementary school age and during university.
(3) At elementary school age everyday space becomes the primal scene and non-everyday space during university.
(4) Primal scene influences the personality forming and career path of 57% of people.

Key words：primal scene, sense of values concerning environment, environmental education
キーワード：原風景，環境価値観，環境教育

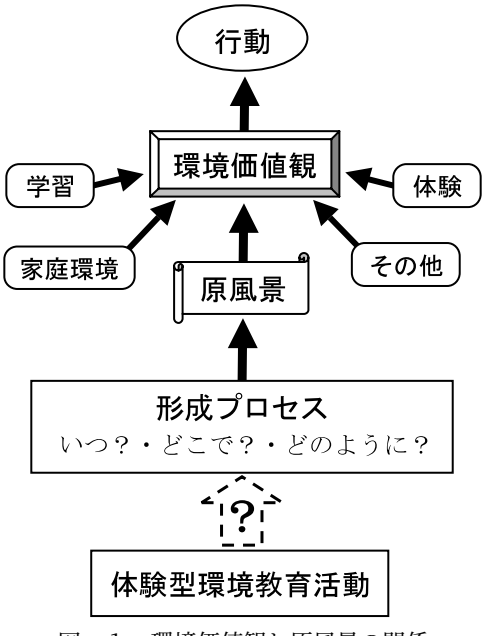
1．はじめに

鹿児島大学高隈演習林では，1999年より地域の子どもたちや大人を対象に，森林を舞台にした環境教育（以下，森林環境教育と呼ぶ）プログラムを実施している（井倉，2003・井倉ら，2007)。その内容には，植樹，枝打ち，間伐などを実際に行う『林業体験』や，演習林内を流れる串良川源流での『沢登り』がある。串良川は大隅半島を流れる一級河川肝属川の支流であるが，肝属川の下流部は畜産業の影響により「汚い川」として有名である。そのため，活動を通して源流の水の美しさを体感した参加者は，なぜ汚くなるのかを考えたり，小学生はその疑問を持ち帰り，

調べ学習のテーマにしたりする。他にも，森林のはたらきや生き物のつながりを体験から学ぶ『森のたんけんたい』，自然の中で五感を研ぎ澄ませて感性を働かせる『夜の森体験』や『ネイチャーゲーム』，仲間との助け合い，集団の中でそれぞれの役割を考える動機付けにもなる『イニシアティブゲーム』などがある。これらの体験プログラムは，森林についての知識に加え，豊かな感性や人間関係を育む機会として，多くの関係者から期待されており，最近では高隈演習林での森林環境教育活動を「総合的な学習の時間」で取り入れる小学校が増えている。

ところでこのような環境教育は，環境に関する知識や理解を深めるだけではなく，環境問題に対して主体的に判断し，行動できるようになることが最終目標とされている。しかし，個人によって環境に関わる価値観（環境価値観：榎本，1994）は異なるため，行動に至るまでには個人差がある。環境価値観とは，環境の保護や向上において，環境のどのような面を保護すべきかを左右する態度・価値観であり，榎本（1994）は環境価値観と関わる要因として環境に配慮した行動，環境問題への意識，環境問題への知識を取り上げ検討している（呉・無藤，1998）。

環境価値観の形成には，家庭環境や学習，体験，その他様々な要因が関わっていると考えられるが，人々から環境価値観を引き出し検証する方法の一つに「原風景」の分析がある。寺本（1990），野中（1992）らによってなされた実証的な研究では，回答者に原風景を「絵」と「回顧文」で表現させる方法を用いることで，個人が重要視している事項を効果的に抽出できることが明らかにされている。



図－１　環境価値観と原風景の関係

図－１は，上記のような環境価値観の形成要因と行動へ至るフローを示したものである。本研究では，原風景を環境価値観の一形成要因ととらえ，個人の原風景が形成されるプロセスやその影響を調べることにより，環境に配慮した行動に結びつく環境価値観を形成する原風景とはどのようなものなのかを明らかにしたい。そして，私たちが取り組んでいる環境教育活動を「原風景の形成」という視点で見たとき，望ましい環境価値観につながる原風景の形成に寄与するためには，どのような環境教育プログラムが望ましいのかということを明らかにすることを目的とする。

２．「原風景」とは

「原風景」の意味は辞書によると「原体験におけるイメージで，風景のかたちをとっているもの」（大辞泉），「原体験から生ずる様々なイメージのうち風景の形をとっているもの。変化する以前の懐かしい風景」（大辞林）となっている。研究者によって原風景の定義は様々に記述されているが，前述の寺本（1990）は，「７，８歳くらいまでに父母や家の中の遊び場などの環境によって形成され，深層意識の中に固着する記憶像の一部」とし，野中（1992）は，「人の成長過程の中で心の中に深く刻み込まれて人生に大きく影響を与える風景」としている。

本研究では，これらの諸定義も踏まえつつ，特に形成年代を定めずに「いままでの人生の中で最も印象に残っている風景」を原風景とよぶことにした。大人になってから体験した風景までを原風景とすることには課題が残るが，アンケートと取材調査において回答者がイメージしやすいことを考慮してこのような定義とした。

３．調 査 方 法

大学生以上を対象に，絵の作成と聞き取り調査を行った。調査時間は１人あたり30分程度である。調査の流れを以下に記す。

①絵の作成

本研究における原風景の定義である「いままでの人生の中で最も印象に残っている風景」を思い浮かべてもらい，Ｂ５サイズの白紙に黒鉛筆でスケッチをしてもらう。絵の得意不得意があることも考慮して，無理に丁寧に描かせることはせず，言葉による説明を付け加えることを認めた。

②聞き取り調査

絵の作成後に聞き取り調査を行った。調査内容は，まず「回答者の属性」，「生まれ育ったところの自然の豊かさ」について質問し，その後絵の内容について説明してもらう。

そして，「原風景の形成時期」，「なぜその風景が印象に残っているのか」，「その風景の心に刻まれている強さ」，「その風景は人格形成や考え方，進路などに影響しているか」，「環境問題を考える上で影響しているか」等について質問した。調査は回答者から聞き取った内容を筆者がアンケート調査紙に記録するという方法である。

以下にアンケート調査紙の内容を示す。

アンケート調査紙

年齢，　学部学科，　男性・女性

1）あなたが生まれ育ったところは自然が豊かなところですか？
①とても豊か　②まあまあ豊か　③どちらとも言えない
④あまり豊かではない　⑤ほとんど自然がない
<具体的にどんなところで育ちましたか？>

2）その風景はいつのものですか？
①小学校より前　②小学校(1～3年)　③小学校(4～6年)
④中学校　⑤高校　⑥大学・専門学校　⑦その他

3）なぜこの風景が印象に残っているのですか？

4）この風景の心に刻まれている強さはどの程度のものですか？
①とても深く刻まれている　②まあまあ深く刻まれている　③あまり深くは刻まれていないが思い出せば出てくる程度　④全く刻まれていない

5）このように心の中に刻まれた風景の事を原風景といい，人生に大きく影響を与える風景といわれています。あなたは，この風景が人格形成や考え方，進路などに影響していると思いますか？
①おおいに影響している　②少し影響している
③どちらとも言えない　④あまり影響していない
⑤全く影響していない
<具体的にどのような影響がありますか？>

6）この原風景はあなたが環境問題を考える上で影響していると思いますか？
①おおいに影響している　②少し影響している
③どちらとも言えない　④あまり影響していない
⑤全く影響していない
<具体的にどのように影響していると思いますか？>

4．結果と考察

4.1. 回答者の属性

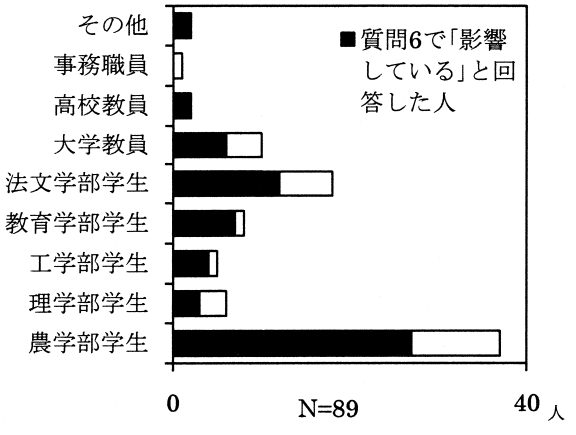
男性51人，女性38人の計89人（18歳～75歳）から回答を得た。そのうちの74人が鹿児島大学の学生である。農学部生が37人，理学部生が６人，工学部生が５人，法文学部生が18人，教育学部生が８人である。それ以外では，大学教員が10人，高校教員が２人，事務職員１人，その他２人である。

質問６)において，描かれた原風景が環境問題を考える上で「影響している」(おおいに影響している，少し影響している）と回答した人は89人中63人であった。本論では，環境問題を考える上で「影響している」と回答したこの63人の原風景を，環境に配慮した行動に結びつく環境価値観の形成につながるものと仮定して，以後の分析を行った。図－２は回答者の属性を，全回答者と「影響している」とした回答者に分けて示したものである。以後の図は「影響している」とした63人の回答者を対象として分析を行っている。

4.2. 生まれ育った自然の豊かさ

図－３は回答者の生まれ育った自然の豊かさを示したものである。全体的に「まあまあ豊か」，「とても豊か」と回答した人が多く，回答者の多くは自然に恵まれたところで育ったこと，あるいは自分が生活してきたところの自然を豊かと認識していたことが伺える。２つの絵を例にあげて見ていく。

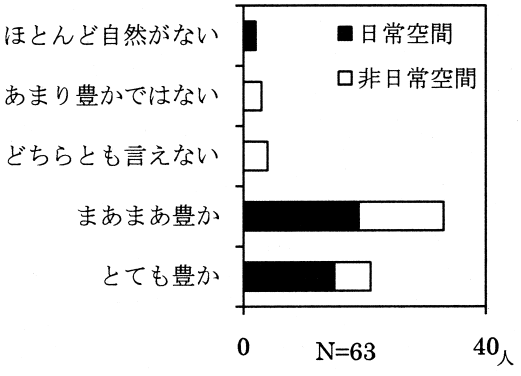
図－４は「とても豊か」と回答した人の原風景である。絵に描かれている木は栗の木で，また絵の中には言葉で「川」と書かれてある。その川から田圃に水をひいて稲を育て，その稲を干しているところの風景である。描かれた



図－２　回答者の属性と質問６で「影響している」と回答した人の割合

範囲はそれほど広いものではないが，稲刈りをしたこと，田圃で遊んだこと，川でウナギをとったこと，木に登って遊んでいたことなど，回答者から語られる思い出や，その風景から自身が得られたもの，その風景に愛着が持てる理由などは具体性を帯びているものが多かった。後に近くにゴミ処分場ができたことが，環境問題を意識するきっかけになったと回答者は語った。この原風景は回答者が小学校(4～6年) の頃の自宅の風景である。

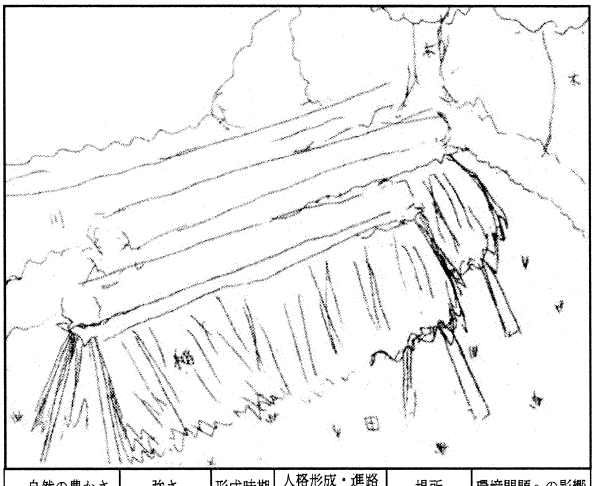
図－５は「まあまあ豊か」と回答した人の原風景である。図－４と同様に小学校（4～6年）の頃の自宅の風景である。夕焼けの時間（小学校からの下校時間）に家の窓から眺めた風景を描いたものである。友人と下校して，窓から友人を見送る時に見ていた風景で，奥の山には山桜が描かれている。手前に描かれた田圃や川については「川があった」，「田圃があった」程度で，「とても豊か」と答えた図－４の回答者と比較すると，その場で頻繁に遊んだなどの思い出はこれらの要素からは語られなかった。この原風景が環境問題への意識につながった理由としては，奥に見える山の木が大量に伐採され，自分の好きな山桜の木も切られそうになったことや，生活排水の影響でホタルが減ったことなどが挙げられ，慣れ親しんだ風景の「変貌」が背景となっていることがわかった。



図－３　生まれ育った自然の豊かさ

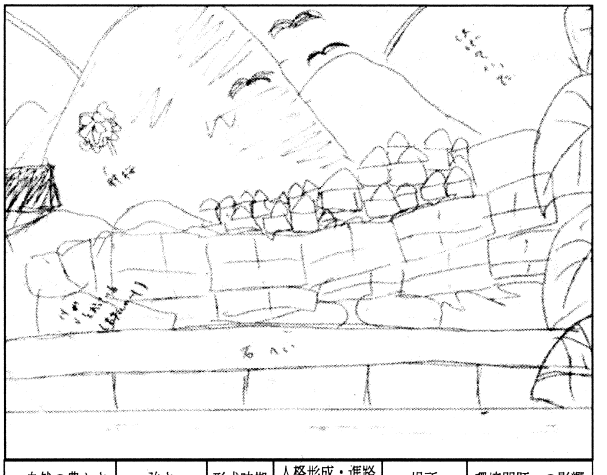
これらの２つの絵に見られるように，「まあまあ豊か」と回答した人の多くは「とても豊か」と回答した人と比較すると，絵に描かれた個々の要素から引き出される具体的な思い出がそれほど多くはなかった。人が自然をより「豊か」と感じるには，視覚的に捉えられる身近な自然の豊かさだけではなく，その場での遊びやさまざまな活動の体験の有無が大きく影響しているものと思われる。そのため，「豊か」と回答した人の63%が自宅や自宅近くの風景，通学路，遊び場のように日常的に接する機会が多かった空間(以降，「日常空間」とよぶ) を描いていた。また，環境問題への意識につながった背景には，原風景に描かれた場所がその後開発などにより「変貌」したことが影響している場合も多く，今回の調査では「豊か」と回答した54人中15人がそうであった。

一方，数は少なかったが，「ほとんど自然がない」と回答した人も日常空間を描いていた。例えば図－６の回答者は，大阪から鹿児島へ引っ越したことで自然の豊かなところに行く機会が増え，それと同時に自分が過去に住んでいた地域の川の汚さ，騒音問題に気付くようになり，それが環境問題への意識に影響していると回答した。



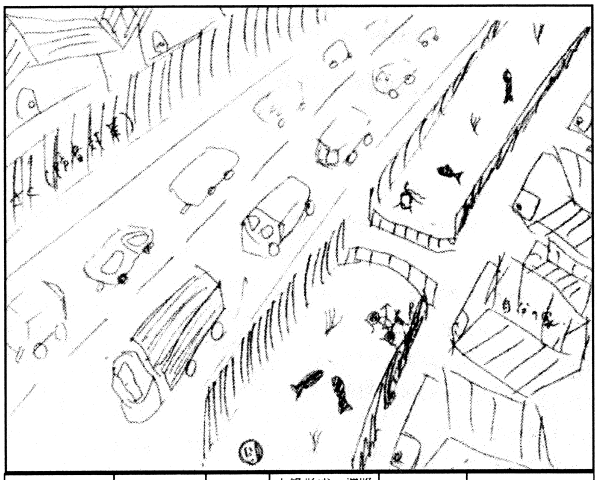
自然の豊かさ	強さ	形成時期	人格形成・進路等への影響	場所	環境問題への影響
とても豊か	とても深く刻まれている	小学校	おおいに影響している	自宅<日常空間>	おおいに影響している
印象に残った理由	稲刈りをしていたこと、田圃で遊んでいたこと、川でうなぎをとっていたこと、木(栗の木)の実を拾っていたことなど、描かれた要素全てから思い出が語られた。後に、近くにゴミ処分場が出来たことが環境問題を考える上で影響するきっかけとなったと語られた。				

図－４　19歳女性の原風景(小学校(4～6年)時代・自宅周辺)



自然の豊かさ	強さ	形成時期	人格形成・進路等への影響	場所	環境問題への影響
まあまあ豊か	とても深く刻まれている	小学校	少し影響している	自宅<日常空間>	おおいに影響している
印象に残った理由	家から見えるきれいな夕焼けの風景。奥の山の木が大量に切られはげ山になり、自分の好きな野桜の木が切られそうになったこと、生活排水の影響で蛍が減ったことなどが語られた。				

図－５　21歳女性の原風景(小学校(4～6年)時代・自宅周辺)



自然の豊かさ	強さ	形成時期	人格形成・進路等への影響	場所	環境問題への影響
ほとんど目然がない	とても深く刻まれている	小学校	おおいに影響している	目宅周辺 <日常空間>	おおいに影響している
印象に残った理由	大敗の風景。鹿児島に来てから目然の豊かなところに行く機会が増えて目分の住んでいたところの川などの汚さに気付き、それがきっかけで印象に残っていると語られた。				

図－６　22歳男性の原風景（大学時代・大阪の実家周辺）

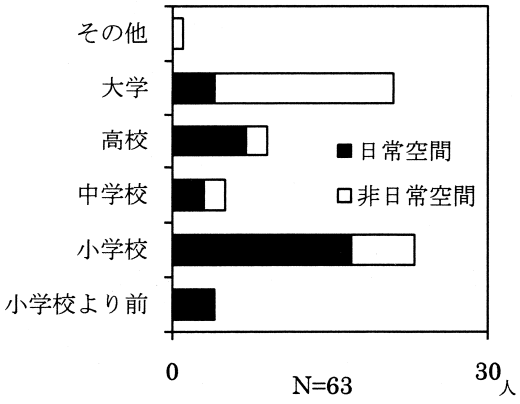
4.3. 原風景の形成時期

図－７は原風景の形成時期を示したものである。大きく２つの特徴が見られる。１つは，原風景の形成時期の分布では小学校時代と大学時代の２つの山が見られることである。もう１つは，小学校時代は日常空間が，大学時代では非日常空間（日常空間とは逆に普段の生活であまり接する機会のない空間，例えば旅行先や大学の実習先など）が原風景として残りやすいということである。これも例をあげて見ていきたい。

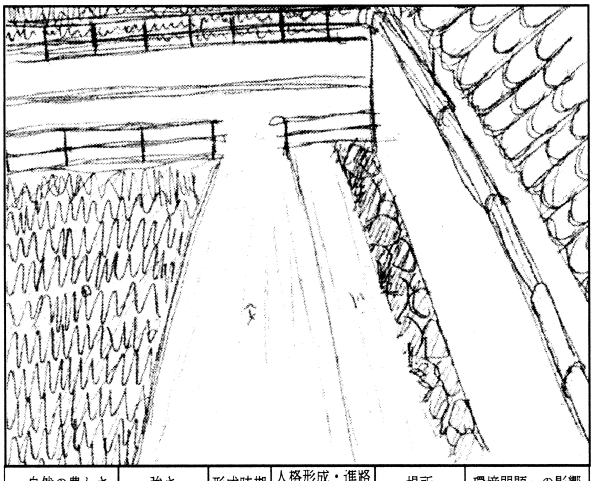
図－８は，小学校（1～3年）時代に原風景が形成されたと回答した人の絵である。場所は小学校への通学路（日常空間）である。この絵からは，笹舟を作って川に流していたこと，寄り道して学校に遅刻し，先生に怒られたことなどが語られた。絵の中にある田圃は見渡す限り一面に広がっていたが，最近になって住宅地を作るために埋め立てられたとのことである。この回答者も生まれ育った自然の豊かさを「とても豊か」と回答しており，慣れ親しんだ日常的な空間が変貌したことが環境問題への意識の形成に影響を及ぼしていた。

図－９は，大学時代に見た風景を原風景とした人の絵である。この回答者は生まれ育った自然の豊かさを「とても豊か」と回答し，子ども時代に遊んだ思い出などがあったにも関わらず大学時代の実習の時に見た風景を原風景としてあげた。徳之島で見たサクラツツジで，霧がかかり幻想的で，この風景に出会ったことが大学での研究内容を決めるきっかけになったと語った。

このように，大学時代に見た風景を原風景とする回答が



図－７　原風景の形成時期

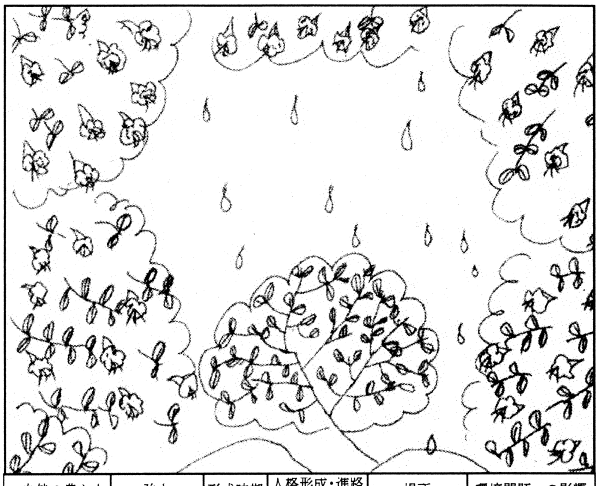


自然の豊かさ	強さ	形成時期	人格形成・進路等への影響	場所	環境問題への影響
とても豊か	とても深く刻まれている	小学校	どちらとも言えない	通学路 <日常空間>	おおいに影響している
印象に残った理由	通学路でもあり、遊び場でもあった。笹舟を作って流していたところ、そのせいで学校によく遅刻をしていたけど、いまは楽しい思い出となっている。絵に描かれた田圃はずっと広がっていたが、最近は埋め立てられ住宅地が広がりショックを受けたと語られた。				

図－８　20歳女性の原風景（小学校(4～6年)時代・通学路）

多かったことは，筆者らにとって予想外の結果であったが，小学校時代と大学時代という原風景の２つの形成時期は，その形成空間（日常と非日常）と密接に関連している。小学校時代に形成された原風景は23人中17人が日常空間をあげた。非日常空間とされたものは，祖父母宅や親戚宅がほとんどで，これらは自宅から離れていたとしても訪れる頻度が多ければ日常空間に近い場所ともいえる。

中学校，高校に進むにつれ，旅行などで非日常空間を体験する機会が増える。中学校時代や高校時代に形成された原風景では，修学旅行先や部活の遠征先などの非日常空間を描く回答者もいたが，それでも小学校時代と同様に日常空間を描く回答者の方が多かった。例えば図－10は中学校時代に原風景が形成されたと回答した人の絵で，自宅という日常空間での家族との何気ない時間を描いている。家族の絵を描いたのはこの回答者一人であったが，このような



自然の豊かさ	強さ	形成時期	人格形成・進路等への影響	場所	環境問題への影響
とても豊か	とても深く刻まれている	大学	おおいに影響している	実習先<非日常空間>	おおいに影響している
印象に残った理由	田舎で田圃の多い地域で育った。この風景は実家のものではなく、大学になって実習で行った徳之島での風景。天気は雨で残念な気持ちだったが、そんなはずの中、山の中で魅かれたサクラツツジの絵。霧もかかっており幻想的で、しばらく見入っていた。いつまで見ても飽きない風景。もともと山や花、木が好きだったので印象に残っている。この地の近くでダム開発が進められており、この木、この地域一帯を守りたいと感じ、卒業論文の中でこれらの魅力を訴える内容が出来れば、と思ったことが研究調査地を徳之島に選んだ理由だと語られた。				

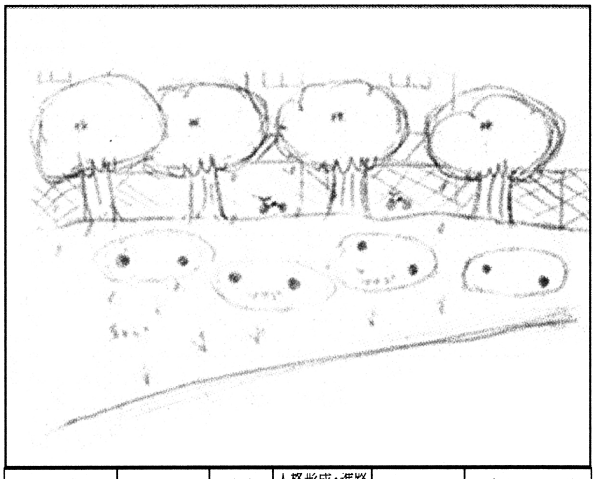
図－９　21歳女性の原風景（大学時代・実習先）

自然の豊かさ	強さ	形成時期	人格形成・進路等への影響	場所	環境問題への影響
まあまあ豊か	とても深く刻まれている	高校	おおいに影響している	実家<日常空間>	少し影響している
印象に残った理由	畑の多い阿蘇の近くにある住宅街で育ち、自然と町と住みやすい環境だった。この絵は家族で過ごしている日常的な風景。将来自分が思い描く生活像でもある。この風景に自分も近づけるようにがんばりたいから頑張れる。生活の中で環境に関わることは多くあるので、環境問題を考える際に無関係とは思えないと語られた。				

図－10　21歳女性の原風景（中学時代・自宅）

家庭内での家族との光景も重要も日常空間の一つといえよう。図－11は高校時代に原風景が形成された回答者の絵で，高校の通学路の桜並木を描いたものである。

一方で大学時代の非日常空間をみると，家族とではなく友人や個人で行った旅行先などが多かった。同じ旅行でも小学校～高校までは家族や学校に連れられて行くものがほとんどだが，年齢を重ねるにつれ，「友人と」あるいは「自分で」というように，主体的な行動が多くなってくる。



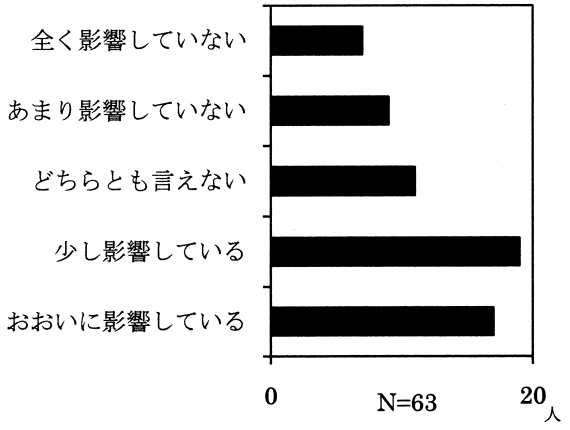
自然の豊かさ	強さ	形成時期	人格形成・進路等への影響	場所	環境問題への影響
とても豊か	とても深く刻まれている	高校	どちらとも言えない	通学路<日常空間>	少し影響している
印象に残った理由	希望坂と呼ばれる坂の風景。学校の入口から門までの坂道で、３００ｍくらいあった。新入生がこの坂を登って、新しい生活が始まるということから、この名前が付き、桜並木になっていた。ちょうど入学シーズンには桜が咲いてとてもきれいだった。自分はこの風景が大好きだった。				

図－11　21歳女性の原風景（高校時代・通学路）

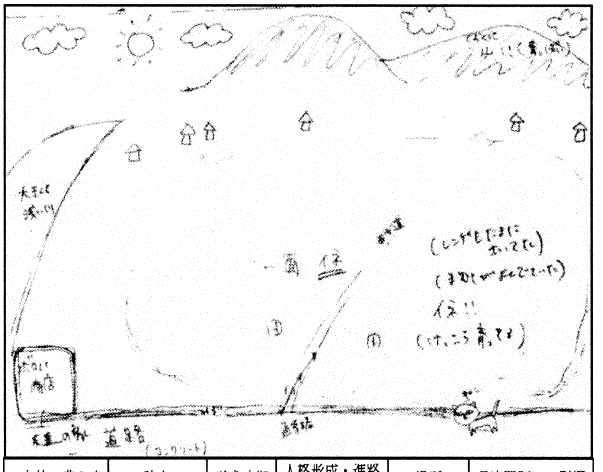
小学校時代の日常空間での遊びと同様に，自らの興味に基づいて主体的に行動する体験は印象に残りやすいものであると考えられ，大学時代の非日常空間が原風景となるのはそのような理由によるものであろう。

4.4. 人格形成・進路等への影響

図－12は，原風景が人格形成や進路などへ及ぼした影響について示したもので，57%の人が「影響している」と回答した。図－13は，「おおいに影響している」と回答した人の絵で，小学校（4～6年）時代の自宅近く（日常空間）の風景である。学校への通学路でもあり，また遊び場でもあった。田圃ではおたまじゃくしを捕まえたり，レンゲの花を摘んだり，また近くの川では中学生になるまで毎年のように家族とホタルを見に行っていたという。しかし中学生のころに台風の被害があったため川の工事が行われ，それが直接的な原因かはわからないがホタルの数が激減し，慣れ親しんだ自分の好きな風景が変貌してしまったことが印象に残る理由だと語った。この回答者の場合は特に「進路」の面で影響していた。もともとは文系科目が得意だったが，この出来事がきっかけで生物や環境問題について興味を持つようになり，高校時代に敢えて理系コースを選択し，現在の進路（農学部生物環境学科）を選択したという。4.2.でも述べたように，原風景として描かれた場所がその後開発などにより「変貌」したことが環境問題への意識につながる例が多かったが，この回答者のように進路決定にも大きな影響を与えている例も見られた。進路決定は人生の中で重要であり，このような回答者の原風景は，まさに



図－12　人格形成・進路等への影響



自然の豊かさ	強さ	形成時期	人格形成・進路等への影響	場所	環境問題への影響
とても豊か	とても深く刻まれている	小学校	おおいに影響している	通学路<日常空間>	おおいに影響している
印象に残った理由	通学路でもあり遊び場でもあった。田圃でオタマジャクシをとり、レンゲの花がきれいだった。台風の被害で川の工事が行われ、それが原因かはわからないが、蛍が激減した。大学の進路を決めるきっかけになったのもこの風景が関係していたように感じると語られた。				

図－13　22歳女性の原風景（小学校(4～6年)時代･遊び場)

『環境に配慮した行動に結びつく環境価値観を形成する原風景』と言ってもいいだろう。

5．ま　と　め

89人の調査結果の中から，環境問題を考える上で「影響する」と回答した63人の原風景について，その形成プロセスについて分析した。生まれ育った自然の豊かさは「豊か」と回答する人が多く，「とても豊か」な人ほど日常空間(遊び場，通学路，自宅周辺など）を描く人が多かった。また「豊か」と回答した人ほど，慣れ親しんだ場の開発などによる環境の変貌に敏感で，それが環境問題への意識につながる場合が多かった。形成時期では小学校時代と大学時代が多く，小学校時代は日常空間を，大学時代は非日常空間をあげる人が多かった。また，57%の人が人格形成や進路などにも影響していることがわかった。

以上のことを踏まえて，演習林を場とするような環境教育活動について，望ましい環境価値観につながる原風景の形成に寄与するために，以下のことを提言したい。まず，演習林のような非日常空間で体験する環境教育プログラムは，非日常空間が原風景となりやすい大学生への効果が期待できるのではないかと思われる。また，日常空間での遊びなどを通して原風景を形成しやすい小学生にとっては，非日常空間での体験以降に日常での遊びなどへとつなげられるプログラムを提供できれば，環境問題への意識につながる原風景の形成に寄与できるのではないかと思われる。環境教育の効果を高めるという点で，子どもたちが日常空間に持ち帰ることのできるプログラムを開発することは，環境教育分野における今後の重要な課題の一つであると考えられる。

最後に，本研究を実施するにあたり，原風景を描き，聞き取り調査にご協力いただいた全ての皆様に深く感謝の意を表する。

引 用 文 献

榎本博明（1994)：環境価値観と環境教育．環境情報科学23(2): 57-61

井倉洋二（2003)：大学の森の森林教育　－鹿児島大学演習林のとりくみ－．森林科学37: 33-38

井倉洋二・芦原誠一・松野嘉昭・松元正美・野下治巳・内原浩之・枚田邦宏・福満博隆（2007)：鹿児島大学演習林における森林環境教育プログラムの展開．鹿児島大学演習林研究報告35: 65-71

野中健一（1992)：大学生の原風景にみる生活環境の中の自然．環境教育3(1): 2-18

呉　宣児・無藤　隆（1998)：自然観と自然体験が環境価値観に及ぼす影響．環境教育7(2): 2-13

寺本　潔（1984)：子どもの知覚環境の発達に関する基礎的研究－熊本県阿蘇谷の場合－．地理学評論57: 89-109

寺本　潔（1990)：子ども世界の原風景：楽しい空間・わくわくする空間．黎明書房，p.12

山田一裕・須藤隆一（1996)：大学生の環境問題に対する意識と環境にやさしい行動．環境教育6(1): 49-56

要　旨

鹿児島大学高隈演習林では1999年より森林環境教育活動を実施している。環境教育では，環境問題に対して主体的に判断し，行動できるようになることが最終目標とされているが，個人によって環境価値観が異なるため，教育効果には個人差が生じる。そこで本研究では，環境価値観の形成要因として「原風景」に着目し，大学生等89人を対象に原風景画の作成と聞き取り調査を行い，個人の持つ原風景の形成プロセスとその影響を調べた。調査結果から，環境に配慮した行動に結びつく環境価値観を形成する原風景を明らかにし，そのような原風景の形成に寄与するための環境教育プログラムのあり方を検討した。

得られた成果は以下の通りである。

(1) 生まれ育った自然が「豊か」な人ほど日常空間（遊び場，通学路，自宅周辺など）を原風景とした人が多かった。

(2) 原風景には主に小学校時代と大学時代の2つの形成時期がみられた。

(3) 小学校時代は日常空間が，大学時代は非日常空間（旅行先など）が原風景となりやすいことがわかった。

(4) 57%の人が人格形成や進路などに原風景が影響していた。